

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ - 外貨建てマンAHLスマート・レバレッジ戦略ファンド 米ドル・コース 愛称：スマレバUSD

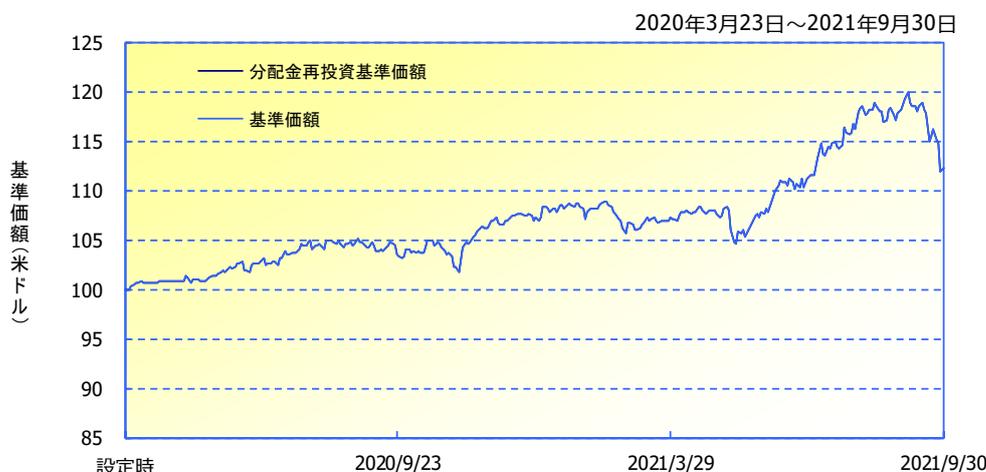
受益者の皆様へ

設定来の運用状況について

2021年11月1日

平素は当ファンドをご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
当ファンドの運用状況についてお知らせいたします。

設定来の基準価額等の推移



※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。
※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

市況動向および運用状況の振り返り

【運用実績】

2020年初以降、新型コロナウイルスの影響が世界の金融市場・経済に大きな影を落とす中、各国中央銀行の金融緩和政策や各国政府の財政刺激策、経済活動の正常化に向けた進展などが支援材料となり、株式市場を中心に急速な回復を遂げてきました。こうした市場環境下、当ファンドの基準価額は堅調に推移し、2021年9月7日に119.87米ドルと設定来高値となりました。

しかしながら、その後9月中旬以降において、中国の不動産開発会社「中国恒大集団」の経営危機に加え、米国を始めとした金利上昇懸念などから、世界の金融市場に警戒感が広まり、幅広いリスク資産に売りが波及しました。こうした中、当ファンドにおいては、株式・債券セクター双方から損失が発生し、基準価額は軟調な展開となりました。

引き続き当ファンドでは、世界中の市場データを24時間モニタリングし、市場環境に応じて投資配分比率を日々決定（日次リバランス）することにより、中長期での資産成長を目指します。

当ファンドの資産クラス別寄与度（2021/9/15～9/30の合計）

| 資産クラス | | 合計 |
|--------|--------|--------|
| 債券 | 株式 | |
| ▲2.86% | ▲3.18% | ▲6.04% |

主要指数の期間騰落率（2021/9/15～9/30）

| | 騰落率 |
|-----------------|--------|
| S&P500（米） | ▲3.86% |
| TOPIX（日） | ▲3.16% |
| ハンセン中国企業株指数（H株） | ▲2.35% |
| 世界株式（MSCI ACWI） | ▲3.74% |
| 世界債券（WGBI） | ▲2.39% |
| 米10年国債利回りの上昇幅 | 0.19% |

※投資対象ファンドである「マン・ファンズVI・ピーエルシー」が発行する「マン・エーエイチエル・アクティブ・バランスド（Iクラス、米ドル建て）」の数値です。

当ファンドの運用戦略について

当ファンドでは、世界各国の株価指数先物、債券先物等に投資を行ない、独自の数量モデルを活用してポジションを構築しています。また、目標ボラティリティ水準を維持することにより、あらゆる市場環境において超過収益の獲得をめざしています。

スマート・レバレッジ戦略の状況

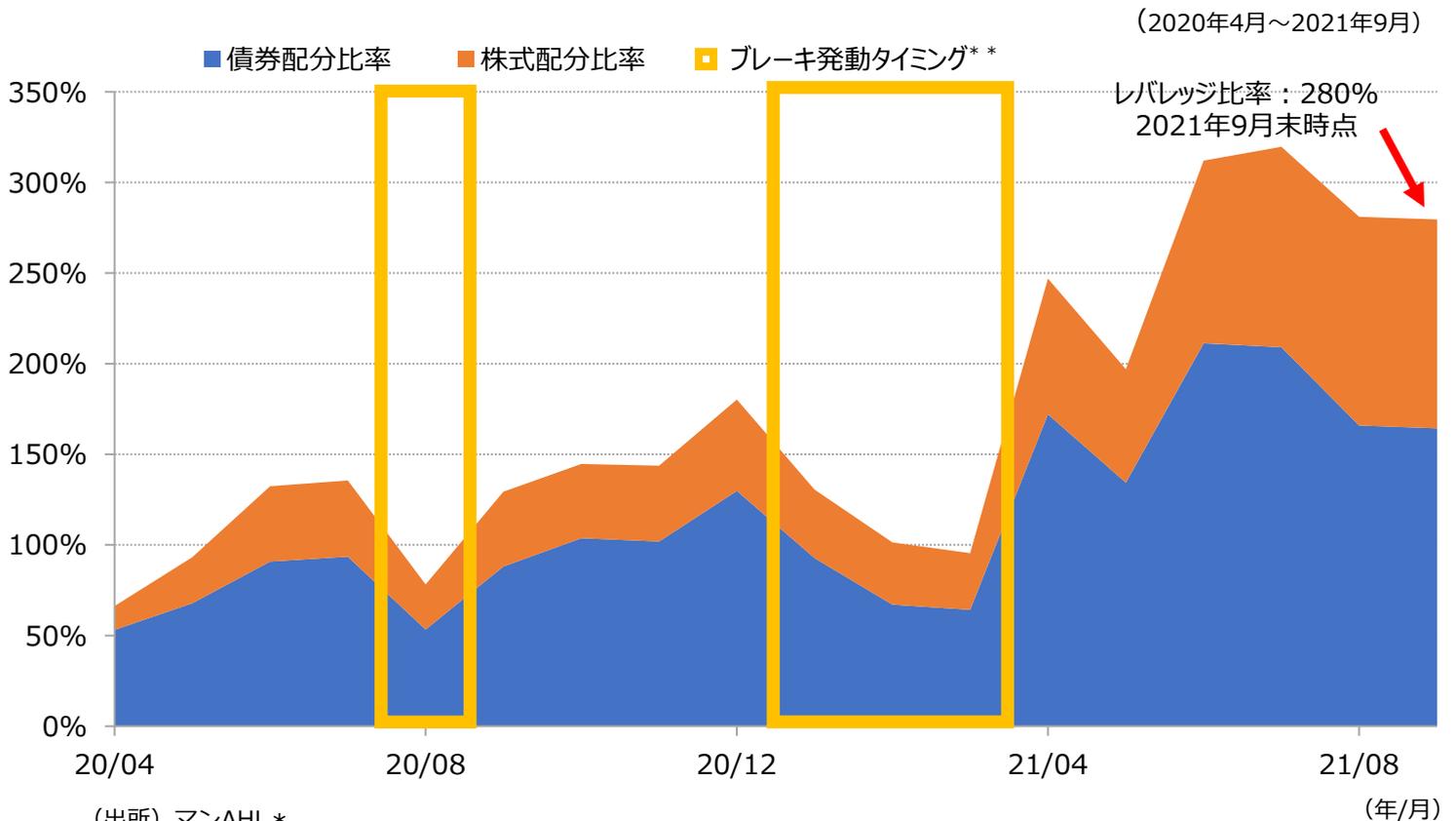
このような運用戦略のもと、2020年4月からの運用状況については、当初、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、市場全体の価格変動比率が高まっていたため、レバレッジコントロールで運用全体のポジションを大きく引き下げていました。その後、7月まではポジションを引き上げ、8月にいったん引き下げた後、12月までは再びポジションを上げました。2021年1月から3月まではHEAVYモデルの発動等により再びポジションを引き下げましたが、4月にはHEAVYモデルの解消等によりポジションを引き上げました。5月にいったんポジションを引き下げたものの、6月以降は再び引き上げ、8月にはやや引下げています。2021年9月30日時点でのレバレッジ比率は280%(債券164%、株式115%)となっています。

HEAVYモデルのブレーキ機能の状況

「株式と債券の同時下落」に備える「HEAVYモデル」のブレーキ機能は、2021年9月30日現在、発動していない模様です※。

※HEAVYモデルのブレーキ機能の発動状況については、マン・グループ東京支店より提供される速報を基に記載しており、今後修正される可能性があります。

2020年4月からのレバレッジ比率の推移（月末ベース）



(出所) マンAHL*

* マン・グループ傘下の資産運用会社「AHLパートナーズ・エルエルピー」、当資料では「マンAHL」といいます。

** 「株と債券の同時下落」に備える「HEAVYモデル」の発動タイミングを指します。ブレーキの発動タイミングが必ずしもファンドへプラスのパフォーマンスを与えるとは限りません。

※ 比率は、組入ファンドの純資産総額に対するものです。

※ レバレッジ比率は、投資元本に対する株式、債券・金利の取引の元本または想定元本の割合を示しています。なお、債券・金利セクターにつきましては、個別取引ごとの金利リスクの違いを考慮し、10年国債の想定元本に換算しています。(例えば、10年国債よりもデュレーションが短い金利先物の想定元本は小さくなるように調整されます。)

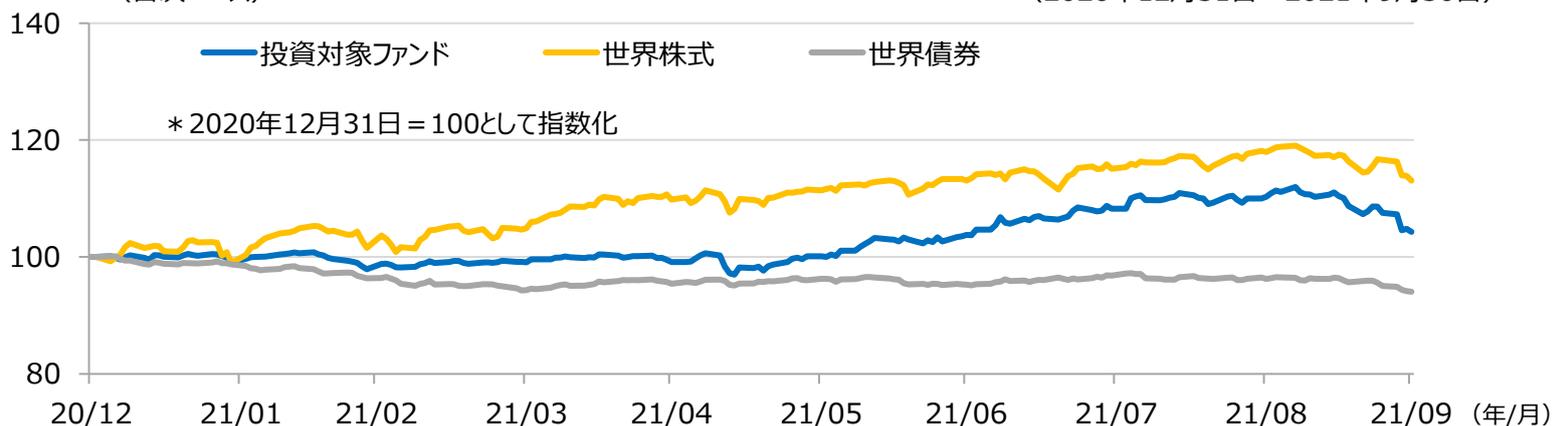
投資対象ファンドの2021年のパフォーマンス

投資対象ファンドの2021年の運用実績を振り返ると、株式からの収益を着実に積み上げるとともに、債券では3月までの大幅な金利上昇局面での損失を抑制しながら、特に6月と7月は長期・超長期の債券のエクスポージャーを高めたことや、8月は株価の上昇により、収益を獲得しています。9月は世界的に株式、債券が下落した影響を受け、マイナスのリターンとなっています。

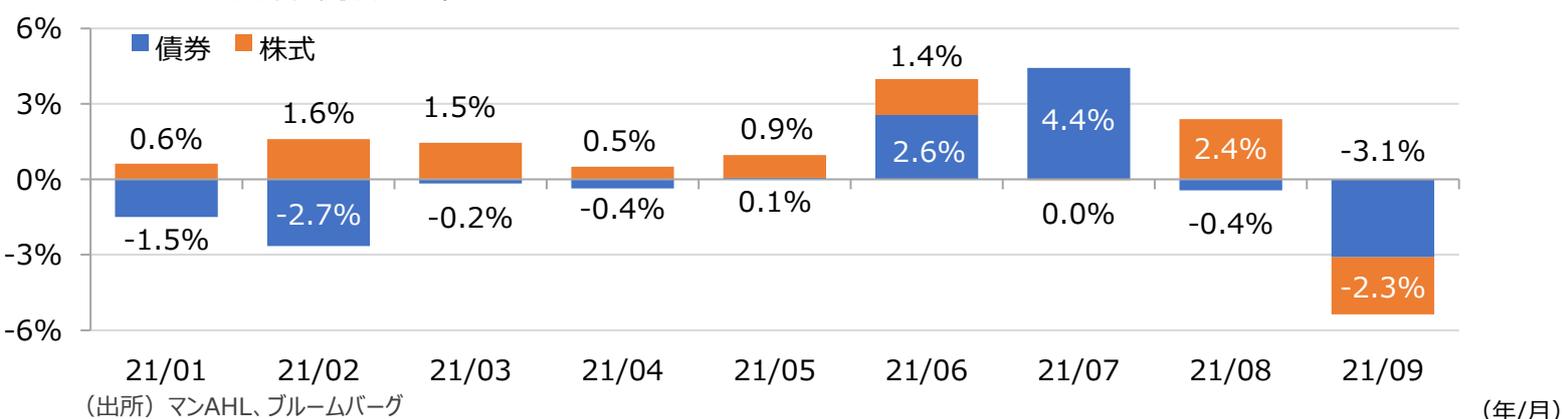
世界株式・債券の値動きの推移と投資ファンドのパフォーマンス（米ドルベース）

(日次ベース)

(2020年12月31日～2021年9月30日)



セクター別寄与度（月次ベース）



(2021年8月末)

| 組入上位5銘柄 (先物) | 合計108.74% |
|--------------|-----------|
| 銘柄名 | エクスポージャー |
| 米国債 (超長期国債) | 30.07% |
| 米国債 (10年) | 24.43% |
| ドイツ国債 (10年) | 23.18% |
| 米国債 (長期国債) | 15.63% |
| S&P500指数 | 15.43% |

(2021年9月末)

| 組入上位5銘柄 (先物) | 合計107.95% |
|--------------|-----------|
| 銘柄名 | エクスポージャー |
| 米国債 (超長期国債) | 29.59% |
| 米国債 (10年) | 25.61% |
| ドイツ国債 (10年) | 21.62% |
| 米国債 (長期国債) | 15.60% |
| S&P500指数 | 15.53% |

※ 投資対象ファンドは「マン・ファンズVI・ピーエルシー」が発行する「マン・エーエイチエル・アクティブ・バランスド (Iクラス、米ドル建て)」です。当ファンドの実績ではありません。また当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。投資対象ファンドにおける運用管理費用等 (年率0.95%) を控除し算出しています。

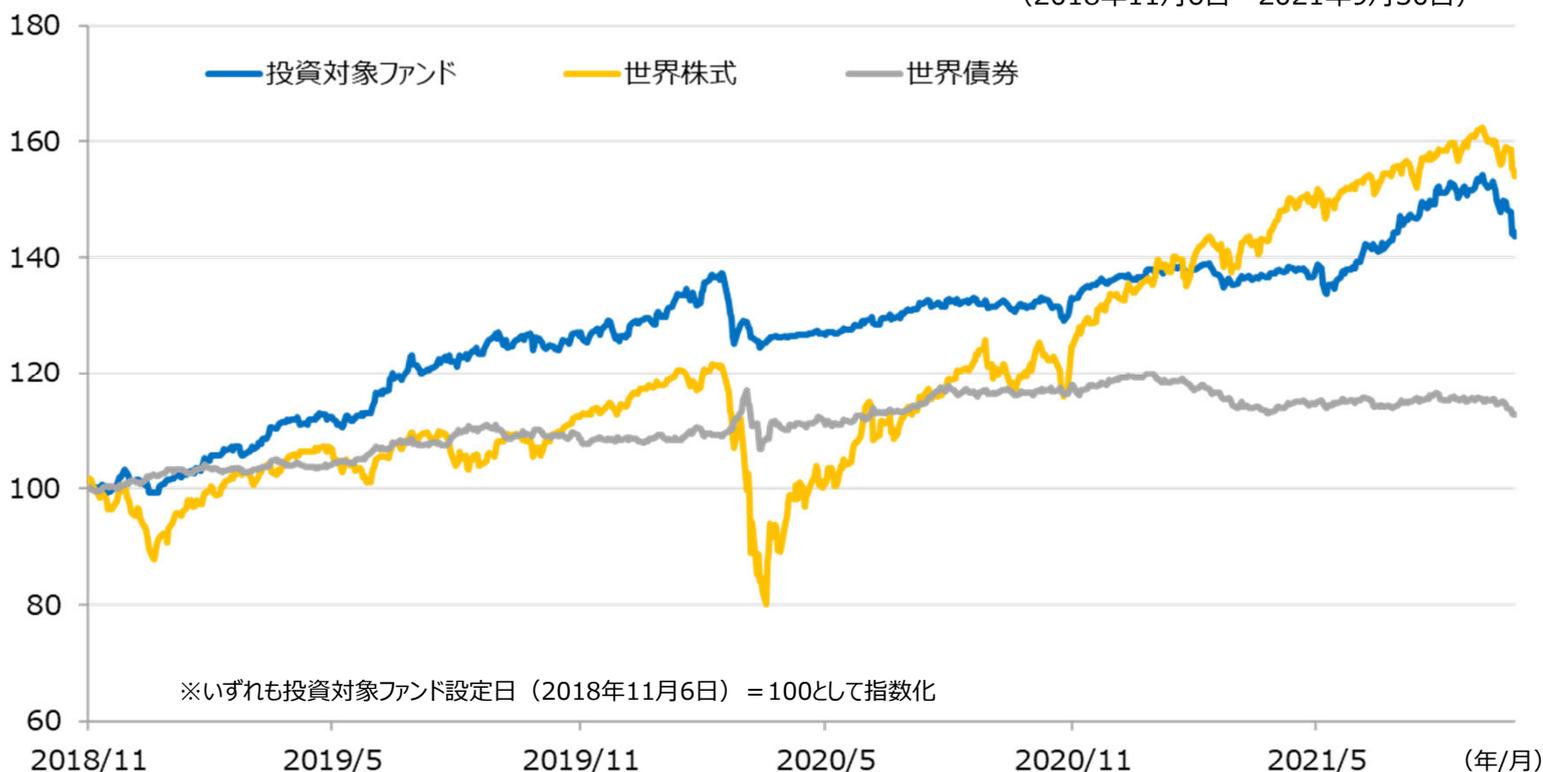
※ 世界株式はMSCI ワールド (配当込み、米ドル)、世界債券はFTSE世界国債インデックス (米ドル) を使用。

ご参考：投資対象ファンドの設定来のパフォーマンス

投資対象ファンドの設定来（2018年11月設定）の運用実績を振り返ると、同期間の世界株式、世界債券に対して、高い投資効率を維持しています。

投資対象ファンドと世界株式・債券の値動きの推移（日次・米ドルベース）

（2018年11月6日～2021年9月30日）



投資対象ファンドと世界株式・債券のリスクリターン特性（月次ベース）

（2018年11月末～2021年9月末）

| | 投資対象ファンド | 世界株式 | 世界債券 |
|--------|----------|-------|------|
| 年率リターン | 12.9% | 16.6% | 4.2% |
| 年率リスク | 8.5% | 18.0% | 5.0% |
| 投資効率 | 1.52 | 0.92 | 0.83 |

（出所）マンAHL、ブルームバーグ

※ 投資対象ファンドは「マン・ファンズVI・ピーエルシー」が発行する「マン・エーエイチエル・アクティブ・バランスド（Iクラス、米ドル建て）」です。当ファンドの実績ではありません。また当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。投資対象ファンドにおける運用管理費用等（年率0.95%）を控除し算出しています。

※ 世界株式はMSCI ワールド（配当込み、米ドル）、世界債券はFTSE世界国債インデックス（米ドル）を使用。

注目！

【ズバリ解説！】長期保有がリターン獲得のカギ

- ・9月単月の投資対象ファンドのリターンは▲5.5%となりました。1995年以降から2021年9月における長期リターンにおいて、▲4%よりも大きなマイナスリターンとなった月は今回を除き**11回**ありましたが、いずれもその後、価格が上昇し最高値を更新してきました。
- ・過去のシミュレーションに基づく、投資対象ファンドのパフォーマンスは、投資期間の長期化によりリターンが安定する傾向にあることから、例えば5年以上保有するなど、長期保有が堅実なリターン獲得のカギであったと考えられます。

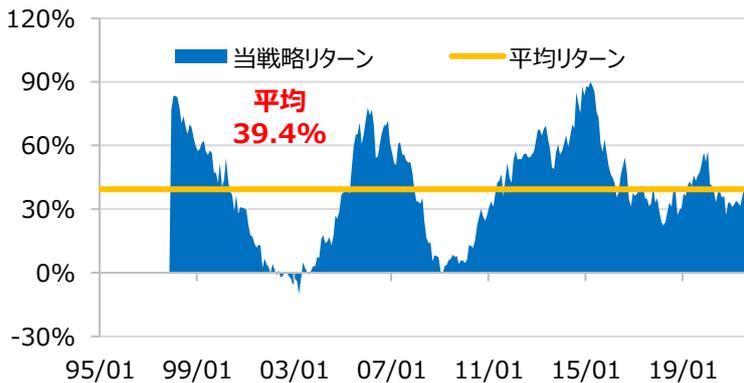
スマレバUSD（シミュレーション期間含む）の値動きの推移

* 1994年12月31日 = 100として指数化

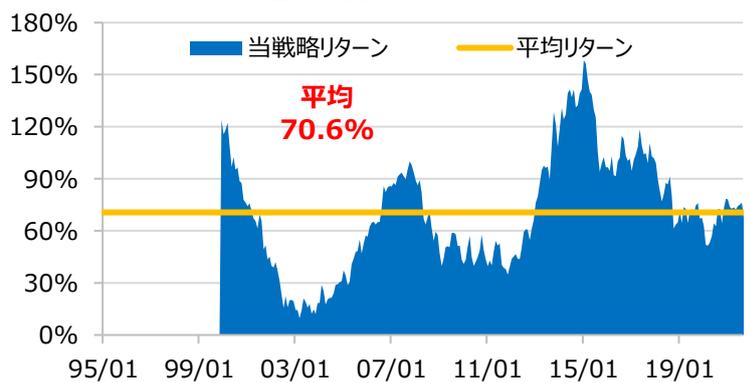


スマレバUSD（シミュレーション期間含む）の期間別ローリングリターン

当戦略を3年保有時のリターン



当戦略を5年保有時のリターン



プラスのリターンとなった割合

| 保有期間 | スマレバUSD | 世界株式 |
|------|---------|-------|
| 1年 | 83.9% | 75.2% |
| 3年 | 95.1% | 77.3% |
| 5年 | 100.0% | 77.9% |

期間：1994年12月～2021年9月。月次リターン。スマレバ（米ドル建て）は1994年12月～2018年11月までシミュレーションデータを使用し、2018年12月以降は実トラックデータを使用。出典：マン・グループ、ブルームバーグ。上記は過去のデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものでもありません。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。投資対象ファンドにおける運用管理費用等（年率0.95%）を控除し算出しています。

当ファンドの運用のポイント

ポイント① スマート・レバレッジ戦略

- 当ファンドでは、長期運用に適したリスク水準を維持しながら効率的なリターンを獲得するために
①リスクベースでの資産配分、②レバレッジ・コントロールにより、攻めと守りの運用をめざします。
- 世界の市場データをシステムで24時間徹底的に分析、管理することで、常に最適と考えられるポートフォリオを維持することをめざします。

リスクベースの資産配分

- 各資産のリスク量(影響度)が釣りあうように、配分比率を日々調整

資産配分

価格変動が比較的大きい資産

価格変動が比較的小さい資産

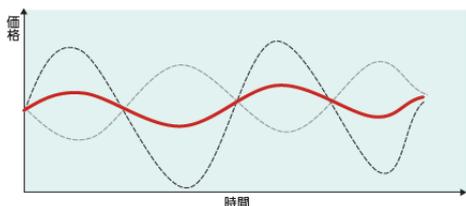
配分比率は相対的に少なめ

配分比率は相対的に多め

- 資産のリスク量が分散されることで、個別資産の価格変動の影響が抑えられ値動きが安定

〈値動きのイメージ〉

〈配分比率の調整イメージ〉



レバレッジ・コントロール

- 組入資産のリスク水準に応じて、レバレッジ比率を機動的に調整

レバレッジ比率

リスク水準が上昇

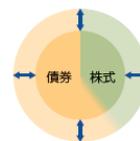
リスク水準が低下

レバレッジ比率引き下げ

レバレッジ比率引き上げ

〈レバレッジ比率・配分比率のイメージ〉

〈レバレッジ比率の調整イメージ〉



ポイント② 2つの自動ブレーキ機能（守りの強化）

- 当ファンドでは、最適なポートフォリオでも損失回避が難しい2つの局面（「株式と債券の同時下落局面」、「組入資産の下落トレンド局面」）から、運用資産を守る2つのブレーキを備えています。

ブレーキ①

「株式と債券の同時下落」に備える「HEAVYモデル」

10分刻みでモニタリングし、異常を察知するとポートフォリオ全体の組入比率を最大半減

- ✓ 当ファンドでは、世界の「株式先物」と「国債先物」の価格変動を10分刻みでモニタリングします。
- ✓ 高頻度データの分析により同時下落の兆候とみられる異常値を察知した場合、ポートフォリオ全体の組入比率を最大半減することで、「株式と債券の同時下落」から運用資産を守ります。

ブレーキ②

「組入資産の下落トレンド」に備える「モメンタムシグナル」

下落トレンドを察知した資産の組入比率を最大半減

- ✓ 一般的に資産価格の値動きはトレンドが一定期間継続するという性質があると考えられています。下落トレンドが続いている資産の組入れは、パフォーマンスの悪化要因となります。
- ✓ 当ファンドは、世界中の資産価格のトレンドをマン AHL独自のノウハウで分析します。下落トレンドを察知した資産については、組入比率を最大半減させることで、個別資産の下落トレンドから運用資産を守ります。

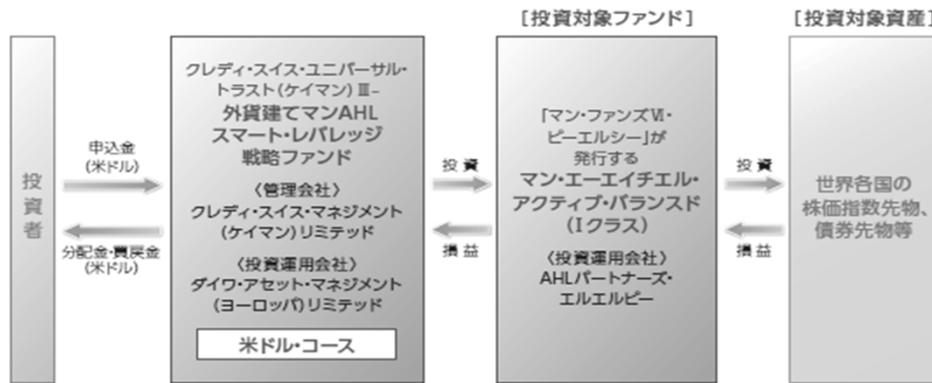
Ⅰ ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- 世界各国の株価指数先物、債券先物等に投資を行い、信託財産の成長を目指します。

ファンドの特色

1. 世界各国の株価指数先物、債券先物等に投資を行い、独自の数量モデルを活用してポジションを構築します。
 - ◆投資運用会社は、世界各国の株価指数先物、債券先物等に投資を行うマン・エーエイチエル・アクティブ・バランスド（Iクラス）（以下、「投資対象ファンド」ということがあります。）の投資証券に主に投資することで、かかる投資成果を享受することを目指します。
 - ◆投資対象ファンドの目標ボラティリティ水準を維持することにより、あらゆる市場環境において超過収益の獲得を目指します。なお、目標ボラティリティは10%とします。
 - ◆投資対象ファンドは、デリバティブ取引において、レバレッジを活用します。
 - ◆ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。
 - ◆投資対象ファンドの運用は、AHL パートナース・エルエルピーが行います。
2. 為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。
 - ◆ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
3. ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。



※ くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

Ⅰ 投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動）」、「株価指数先物取引・債券先物取引の利用に伴うリスク」、「ファンドが活用する戦略に関するリスク」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※投資対象ファンドでは、デリバティブ取引を利用して純資産規模を上回る買建てを行なうことから、価格変動リスクが現物有価証券に投資する場合と比べて大きくなる可能性があります。また、レバレッジを活用して取引を行なわないので、投資対象の市場における値動きに比べて大きな損失が生じる可能性があります。

※ファンドは、米ドル建ての投資対象ファンドに投資するため、米ドル債から投資する場合には、投資対象ファンドに対する為替変動のリスクはありません。ただし、円債にて米ドル建て資産を評価する場合には、為替変動の影響を直接受けます。したがって、円高局面では、円債で評価した資産価値が大きく減少する可能性があり、この場合、円債で評価したファンドの基準価額が下落するおそれがあります。また、投資対象ファンドが米ドル以外の通貨建て資産への投資を行う場合、当該通貨で評価した資産価値が米ドルに対して下落するおそれがあります。

※ファンドの受益証券の基準価額は、基準通貨建てにより表示されるため、円債から投資した場合、円貨換算した基準価額は、円債と当該基準通貨の間の外国為替レートの変動の影響を受けます。

※投資対象ファンドは、為替ヘッジを行ないませんが、影響をすべて排除できるわけではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

| 投資者が直接的に負担する費用 | |
|---------------------|---|
| 購入時手数料 | 購入は、口数でのみお申込みいただけます。 米ドル・コースの購入時手数料の額は、購入口数に応じて、購入金額の 3.30%（税抜3.00%）を上限 とする日本における販売会社が定める手数料とします。 購入時手数料は、購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価として日本における販売会社に支払われます。詳しくは日本における販売会社にお問い合わせください。 |
| 換金（買戻し）手数料 | ありません。 |
| 投資者が信託財産で間接的に負担する費用 | |
| 管理報酬等 | ファンドの資産から支払われる管理報酬等の総報酬は、純資産総額の 年率 1.31%以内* です。 *設定日から起算して 66 ファンド営業日目の翌日以降において、前ファンド営業日における過去 65 ファンド営業日間の分配金再投資基準価額*の騰落率が 2%未満である場合には、純資産総額の 年率 0.81%以内 となります。 ※分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものの（注）管理事務代行報酬に最低報酬金額が設定されているため、純資産総額によっては上回ることがあります。 |
| 投資対象ファンドの 受益証券 | 投資対象ファンドの受益証券に対して、年率 1.09%以内 （2021 年 7 月 30 日現在：0.95%程度） ※今後この数値は見直される場合があります。 |
| 実質的な費用 | 年率 1.76%～2.26%程度* ※2021 年 7 月 30 日現在。今後この数値は見直される場合があります。 （注）管理事務代行報酬に最低報酬金額が設定されているため、純資産総額によっては上回ることがあります。 |
| その他の費用・ 手数料 | 上記の報酬のほか、設立費用、監査報酬、目論見書の印刷費用、信託財産の処理に関する費用、設定後の法務関連費用、信託財産にかかる租税等がファンドの信託財産から支弁されます。「その他の費用」につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。 |

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※これらの詳細につきましては、請求目論見書の該当箇所をご参照ください。

販売会社：**大和証券**
Daiwa Securities

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定は・・・

クレディ・スイス・マネジメント
（ケイマン）リミテッド

運用は・・・

ダイワ・アセット・マネジメント
（ヨーロッパ）リミテッド

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて管理会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。